

# ナビック情報検索ツール

## リリースノート

	<b>INFO.WORKER</b> <b>SQL.WORKER</b>



NABIC Co., Ltd.

# インデックス

## 第1章 ナビック情報検索ツールの概要

1. SQL.WORKER とは	1
2. INFO.WORKER とは	1
3. ツールの概要	1

## 第2章 SQL.WORKER の使い方

1. WORKERファイルの考え方	2
2. 画面の構成について	2
3. 新規に WORKERファイル を作成する	
3.1 業務名の登録	3
3.2 処理名の登録	4
3.3 検索SQLの登録	5
3.4 実行時パラメーターの登録	6
3.5 パラメーターの設定	7
4. 作成したWORKERファイルを保存する。	
4.1 上書き保存	8
4.2 名前を付けて保存	8
5. WORKERファイルの設定を修正する。	
5.1 業務名の修正(削除)	8
5.2 業務名の修正(削除)	8
6. WORKERファイル設定のテスト実行	9

## 第3章 INFO.WORKER の使い方

1. 画面の構成について	10
2. 検索結果のエクセル・ファイル出力について	10
3. データ抽出処理について	11

## 第4章 実行時のセキュリティーについて

1. SQL.WORKERでの設定方法	12
2. SQL実行時の入力	12

## [付録] ライセンスの登録について

## 第1章 ナビック情報検索ツールの概要

このツールは、Oracle データベースに累積された情報を、エンドユーザからの要望が多いエクセル・ファイルに取り出すためのツールです。

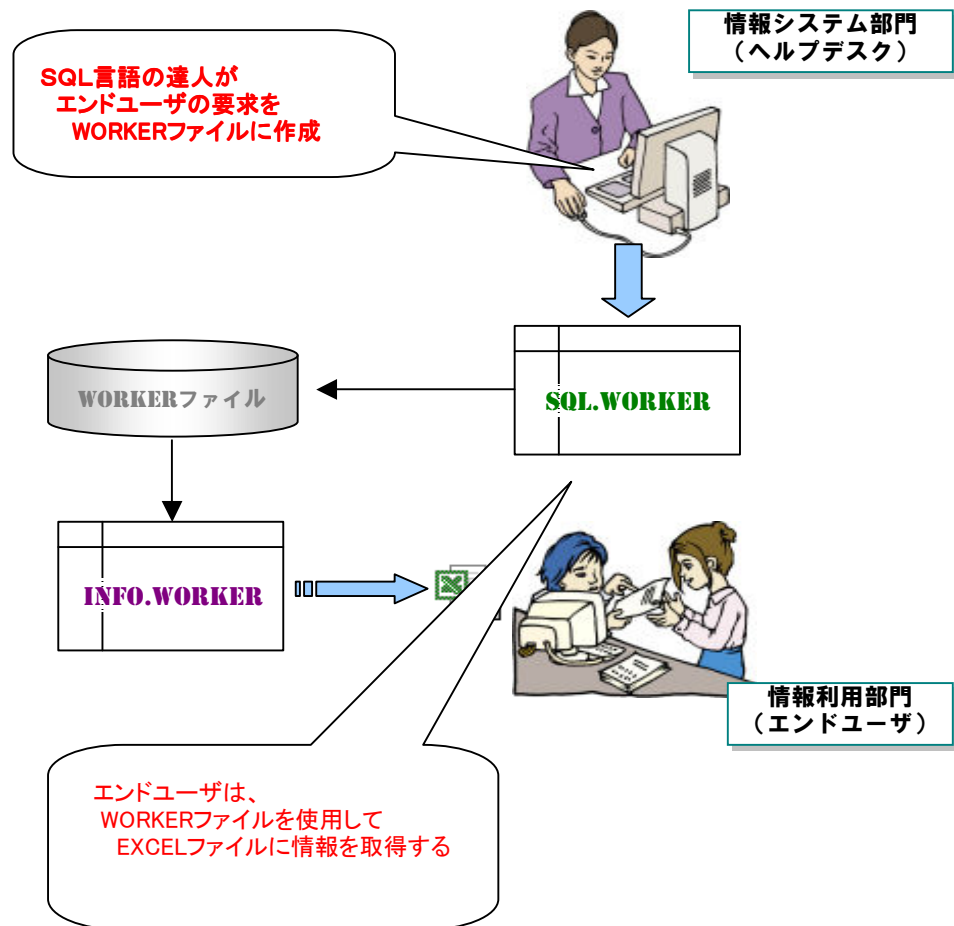
### 1. SQL.WORKER とは

SQL.WORKER は、検索の対象となるデータベースの構造や、記録された項目の内容に詳しく、更にSQL言語を駆使できる情報システム部門等の担当者用のツールで、INFO.WORKER でエンドユーザが使用するための検索情報を体系だて構築するために使用します。

### 2. INFO.WORKER とは

INFO.WORKER は、メニュー化された検索処理を記録したファイルを使用してその利用者が必要とする情報の取り出しのための処理を実行し、画面で抽出結果を確認してからエクセル・ファイルに出力することができます。

### 3. ツールの概要



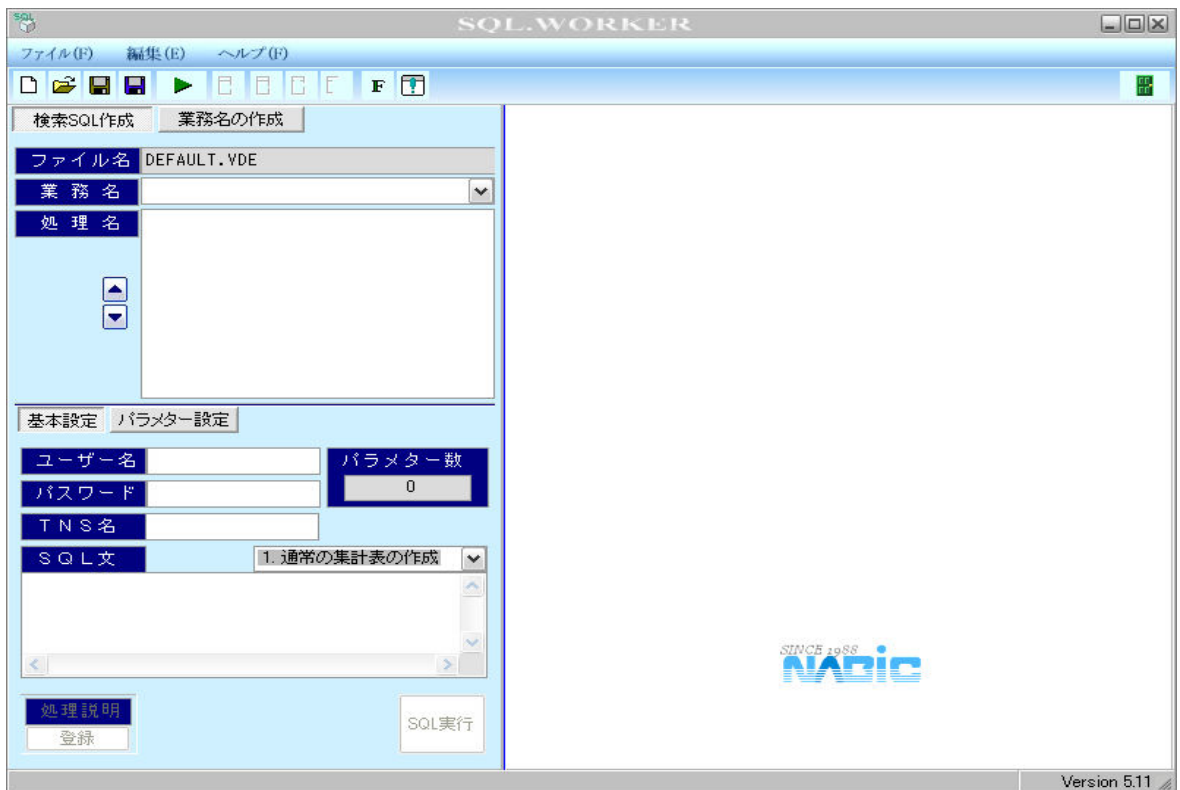
## 第2章 SQL.WORKERの使い方

### 1. WORKERファイルの考え方

- このファイルは、通常のテキスト・ファイルですので、ファイル名を変えて複数作成することができます。
- ファイル名に「組織名」を付けて組織毎にするとか、「業務名」を付けて業務別の WORKERファイルにすることも可能です。
- 「SQLWORKER」は、一度に1つのWORKERファイルの作成・修正をすることができます。
- 1つのWORKERファイルには、「業務名」と「処理名」と称した二階層のメニューを登録することができます。  
( INFO.WORKERでは、「業務名」と「処理名」の表示は変更可能 )
- 処理名を指定して登録したSQLが、エンドユーザの実行単位となります。

### 2. 画面の構成について

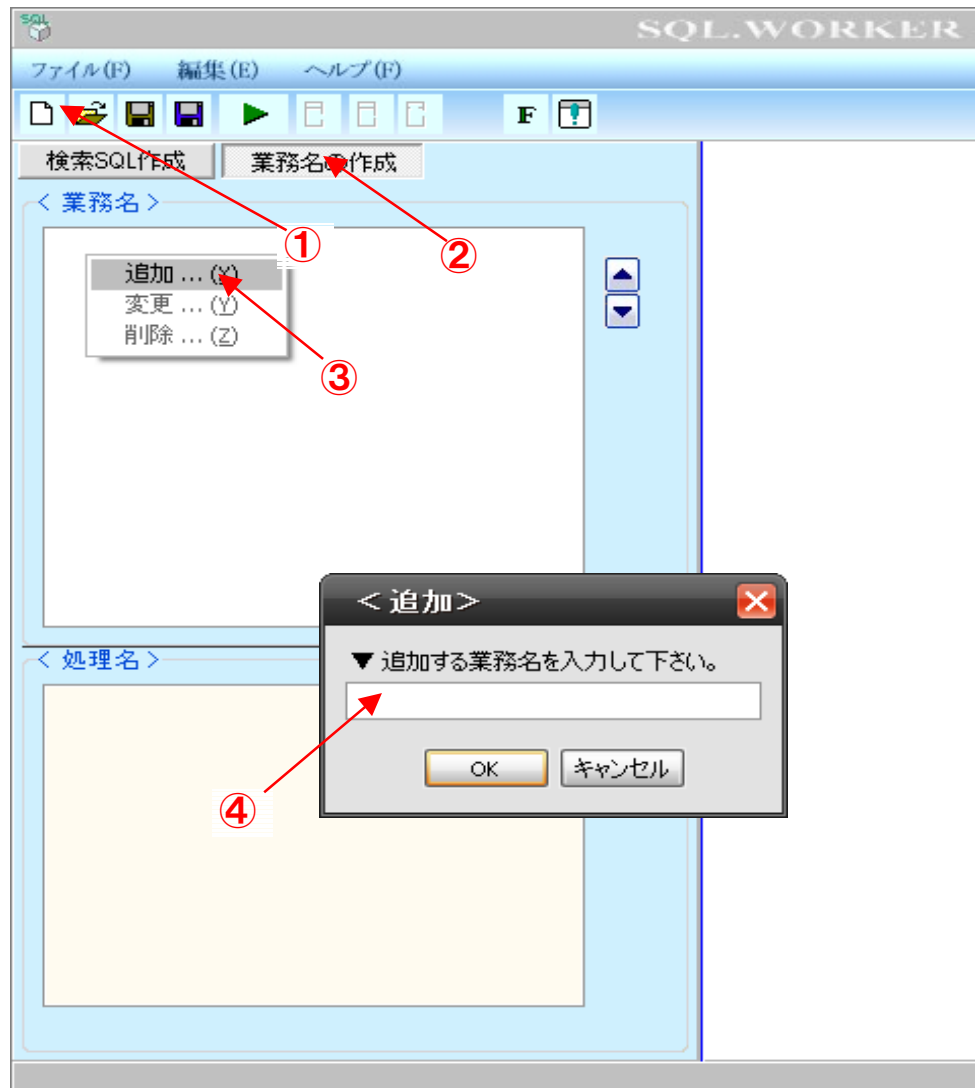
- 左側が業務名や処理名と検索のSQL文を登録するための画面です。
- 右側の余白部分にテスト実行した際の結果をグリッド表示します。
- 上部にあるツールアイコンは、メニューやポップアップ・メニューの機能を補足します。



### 3. 新規に WORKERファイル を作成する

#### 3.1 業務名の登録

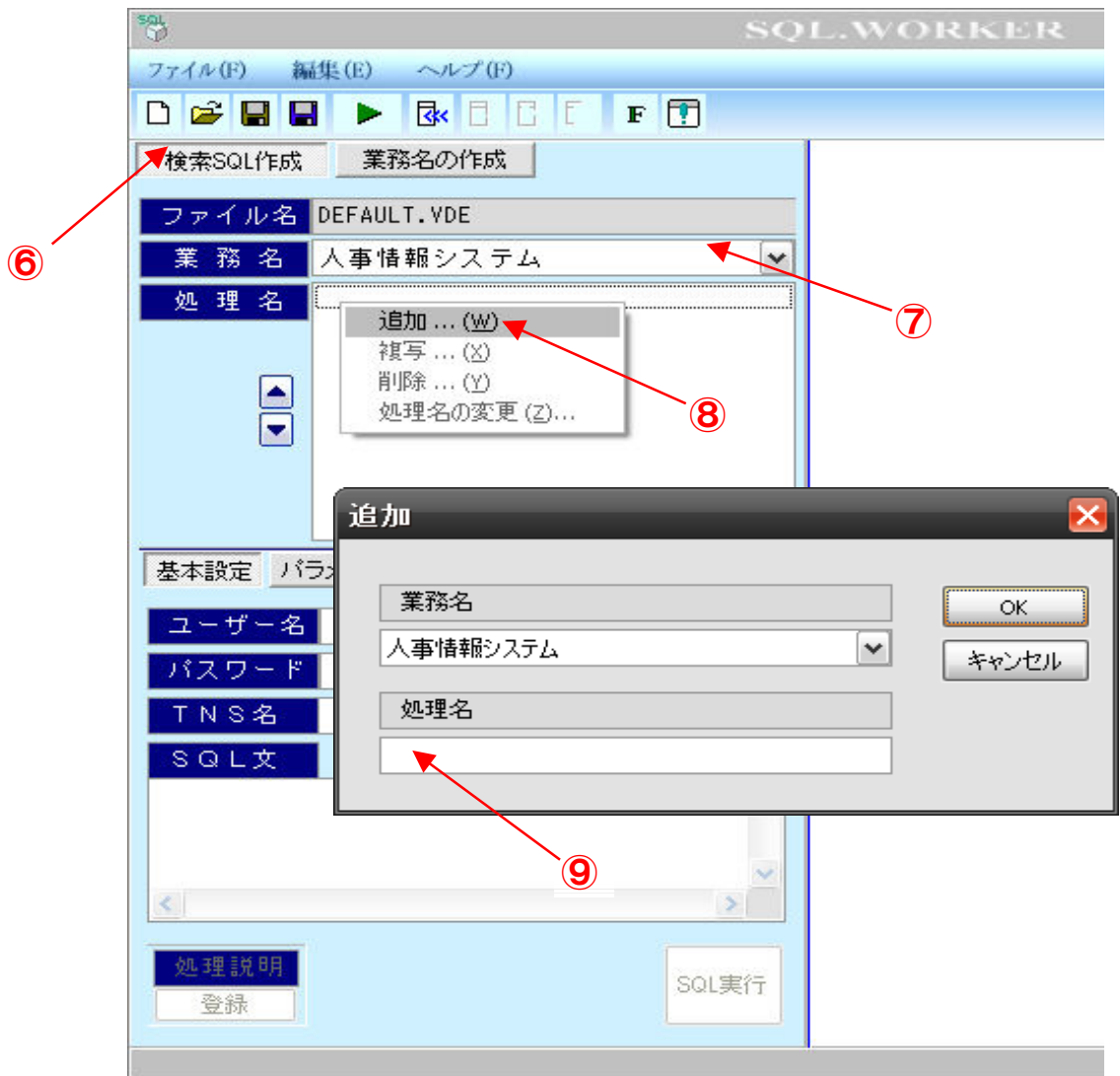
- ① メニューの「ファイル(F)」、「新規作成(N)」か又はツールバーの「新規作成」アイコンをクリックする。
- ② 「業務名の作成」ボタンをクリックして、下記の画面を表示させる。
- ③ 業務名の表示フィールドの右クリックで表示されるポップアップ・メニューの「追加(X)」を選択する。
- ④ 業務名の入力ダイアログが表示されるので、入力して[ OK ]ボタンを押す。



- 以上の操作での繰り返しを行い、必要な業務名の入力を行う。

### 3.2 処理名の登録

- ⑥ 「検索SQLの作成」ボタンをクリックして、下記の画面を表示させる。
- ⑦ 以降で登録する処理の上位メニューとなる「業務名」を選択する。
- ⑧ 処理名の表示フィールドの右クリックで表示されるポップアップ・メニューの「追加(W)」を選択する。
- ⑨ 処理名の入力ダイアログが表示されるので、入力して[ OK ]ボタンを押す。



### 3.3 検索SQLの登録

処理名に対して実行するSQL文を以下の様に登録する。

- ① 接続するデータベースの指定をする。

ユーザー名  
パスワード  
TNS名

※ ユーザ名とパスワードを空白にしておくと、実行時に入力が必要です。

- ② 集計表のタイプを選択する。

- ③ 検索のSELECT文を「SQL文」欄に入力する。

- ・他のエディターやSQL実行ツールで作成した文を貼り付けも可能です。
- ・SQL文の入力欄は、拡げて入力しやすくなります。

ここをマウスでダブルクリックすると、別画面で大きく表示しますので、SQL文の編集と確認が容易にできます。

### 3.4 実行時パラメータの登録

- ・データベースの検索には、実行時にユーザが指定した値により検索したい場合がありますが、そのような場合にSQL実行パラメータとして登録します。
- ・実行時の入力パラメータは、SQL文に以下のように記述します。  
'#\$PMnn\$#' nn = パラメータ番号 ( 01 ~ 99 )

The screenshot shows the 'SQL.WORK' application window. The 'SQL文' (SQL Statement) field contains the following text:

```
E.SAL AS 支給額,  
E.COMM AS 手当  
FROM EMP E, DEPT D  
WHERE E.DEPTNO = D.DEPTNO  
AND E.DEPTNO = SUBSTR('#$PM01$#',1,2)  
ORDER BY D.DEPTNO, E.EMPNO
```

The parameter placeholder '#\$PM01\$#' is circled in red. A red arrow points from the text below to this placeholder.

SQL実行時に入力値に置き換わる



### 3.5 パラメータの設定

- ・SQL文で設定したパラメータ（#PMn\$#）が、実行時にどのような名称で入力するのかの設定を行います。
- ・SQL文で設定したパラメータの数分の設定をします。
- ・単純にキーワードの入力をする場合は、下記のように「テキスト入力型」として指定します。

The screenshot shows the 'Parameter Setting' dialog box with the following elements:

- Tab: **パラメータ設定**
- Parameter ID: #PM01\$#
- Buttons: **追加** (Add), **削除** (Delete)
- Label: **名称** (Name)
- Value: DEPT No.
- Label: **パラメータ** (Parameter)
- Radio buttons:  On: テキスト入力型 (Text input type),  Off: リスト型 (List type)

A callout box points to the 'DEPT No.' text field with the text: **検索実行時の入力項目の名称** (Name of the input item at search execution).

- ・予めコード等を決められた中から選択入力させたい場合は、下記のように選択入力するデータをリストとして設定します。

The screenshot shows the 'Parameter Setting' dialog box with the following elements:

- Tab: **パラメータ設定**
- Parameter ID: #PM01\$#
- Buttons: **追加** (Add), **削除** (Delete)
- Label: **名称** (Name)
- Value: DEPT No.
- Label: **パラメータ** (Parameter)
- List content: 10 ACCOUNTING, 20 RESERCH, 30 SALSE|
- Radio buttons:  On: テキスト入力型 (Text input type),  Off: リスト型 (List type)
- Radio buttons:  On: データベースより (From database),  Off: 固定値をセット (Set fixed value)

Two callout boxes point to the list area:

- One points to the list header 'DEPT No.' with the text: **検索実行時の入力項目の名称** (Name of the input item at search execution).
- Another points to the list items with the text: **リスト型の入力項目の値** (Value of the list type input item).

- ・以上で1つの検索処理の登録が終了です。

#### 4. 作成したWORKERファイルを保存する。

メニューの「ファイル(F)」の「上書き保存(S)」又は「名前を付けて保存(A)」を選択するかまたは、ツールバーのフロッピーアイコンをクリックして保存します。

##### 4.1 上書き保存

- ・ WORKERファイルを新規に作成の場合は、「DEFAULT.VDE」というファイル名になり、ファイル保存のダイアログが表示されますのでファイル名の変更ができます。
- ・ 既存のWORKERファイルを更新した場合は、そのまま上書きされます。

##### 4.2 名前を付けて保存

- ・ 常にファイル保存のダイアログが表示されます。

#### 5. WORKERファイルの設定を修正する。

メニューの「ファイル(F)」の「開く(O)」を選択するか、または、ツールバーのフォルダーアイコンをクリックして、更新したいWORKERファイルを読み込みます。

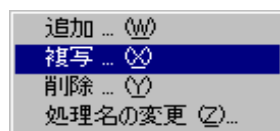
##### 5.1 業務名の修正(削除)

- ・ ツールバーの下の [業務名の作成] ボタンをクリックして、該当の業務名を選択して右クリックで表示されるポップアップ・メニューで名称の変更又は削除をします。
- ・ ポップアップ・メニューに表示されるように、新しい業務名の登録もできます。




##### 5.2 業務名の修正(削除)

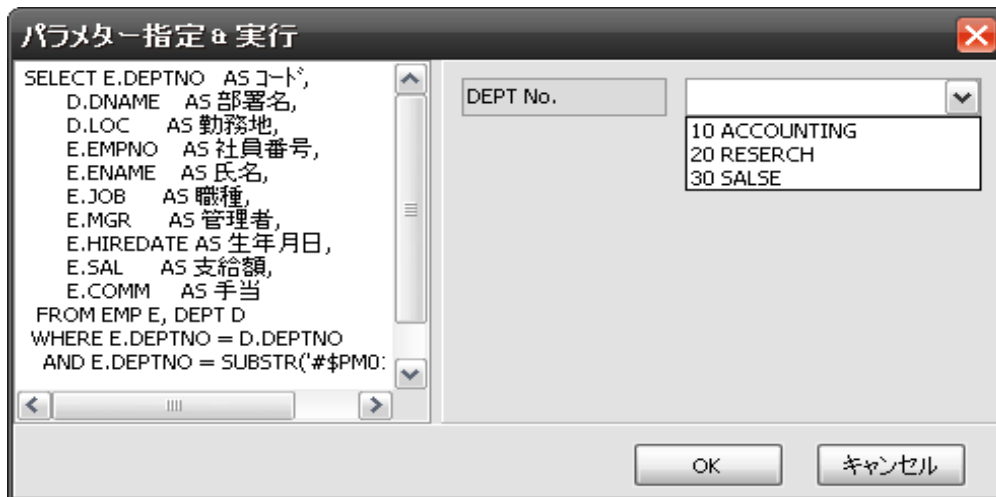
- ・ ツールバーの下の [検索SQL作成] ボタンをクリックして、該当の業務名と表示された処理名を選択して右クリックで表示されるポップアップ・メニューで名称の変更 又は 削除を行います。
- ・ 処理名は、ポップアップ・メニューに表示されるように、既に登録済みの処理のコピーして、似たような検索処理を追加するための「複写」ができます。



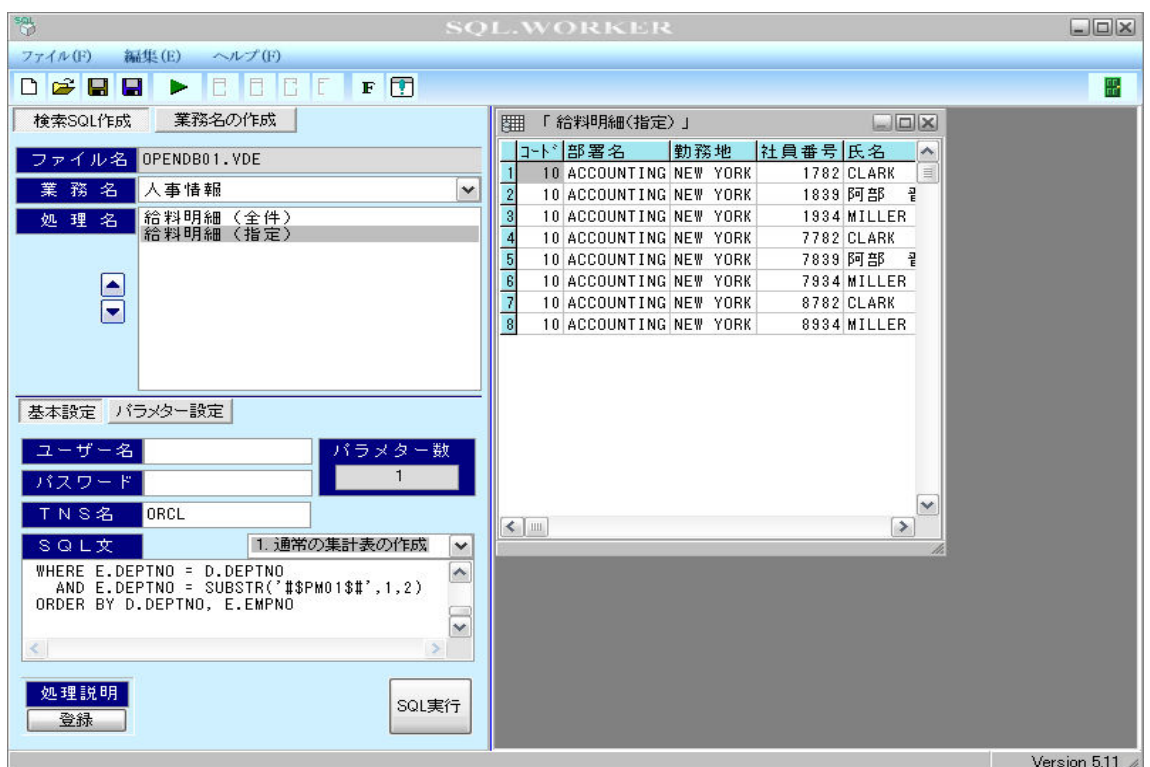
[注] 複写は、現バージョンでは処理名と共にSQL文も複写されますが、パラメータ設定は複写されません。

## 6. WORKERファイル設定のテスト実行

- ・画面の下部の [ SQL実行 ] ボタンか、または、ツールバーの  をクリックすると、その処理のSQL文を実行します。
- ・パラメータ設定がある場合は、下記のようなダイアログが表示されます。



- ・実行結果は画面の右側にグリッド表示されます。

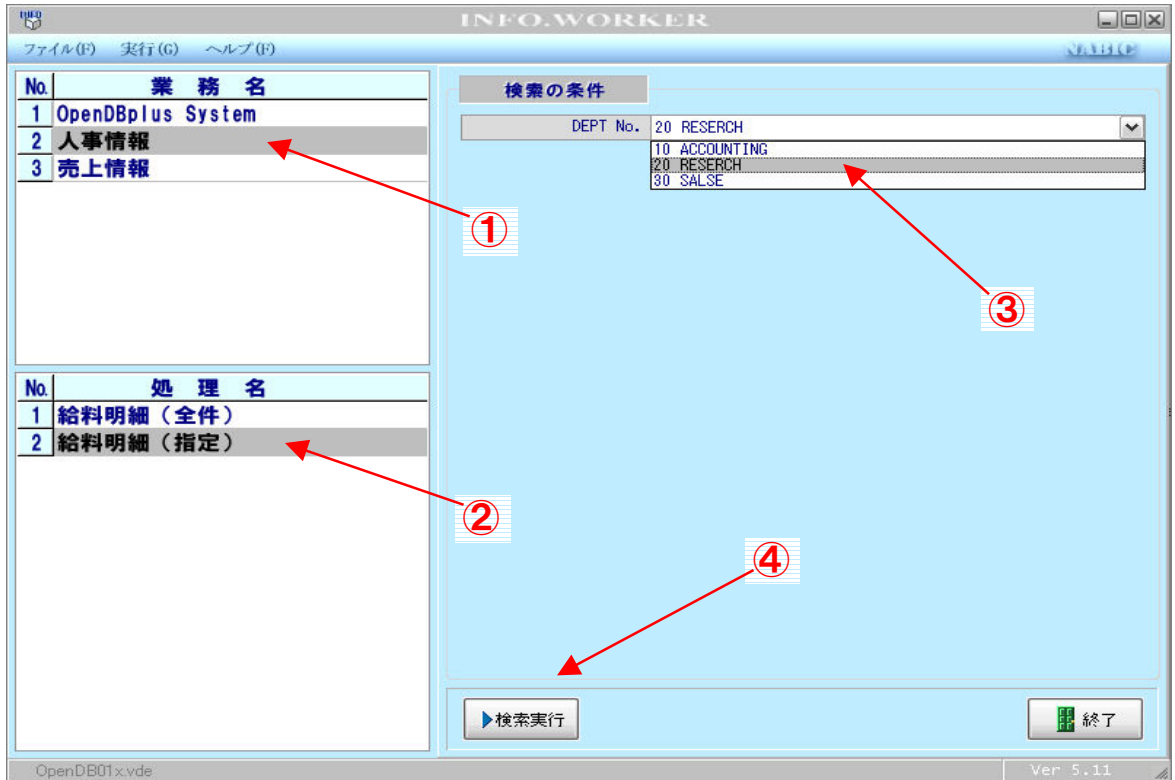


### 第3章 INFO.WORKERの使い方

#### 1. 画面の構成について

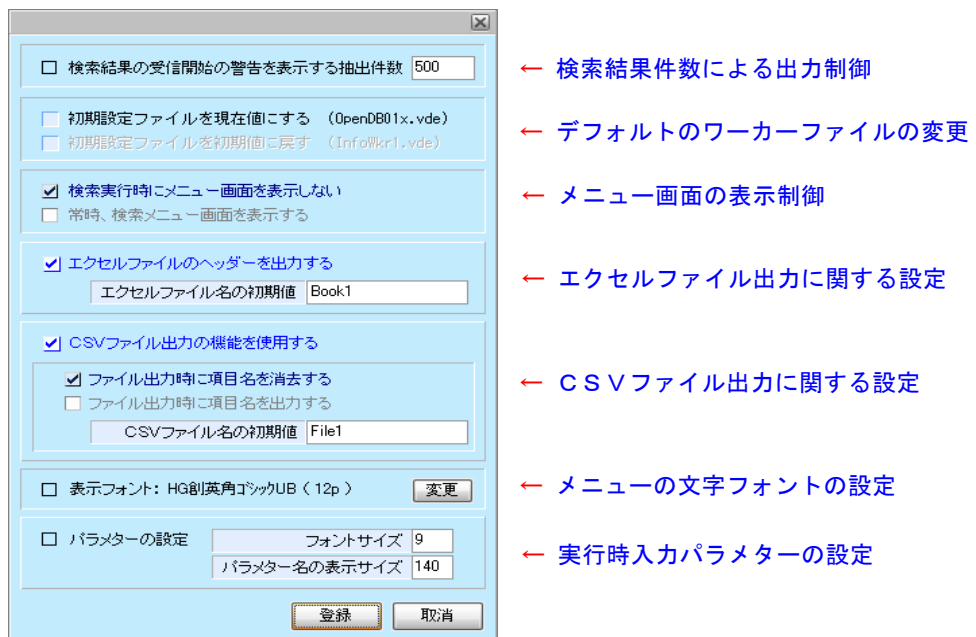
##### 1-1. 処理メニュー画面

この画面は、前記の「SQL.WORKER」で作成したワーカーファイルを読み処理メニューを表示します。



- ① 業務名 : SQL.WORKERで設定された業務名
- ② 処理名 : SQL.WORKERで設定された処理名
- ③ 検索条件の入力欄
- ④ 検索実行ボタンをクリックすると検索処理を開始

※ ファイル(F)メニューの 設定(P) を選択すると各種の実行環境の設定ができます。



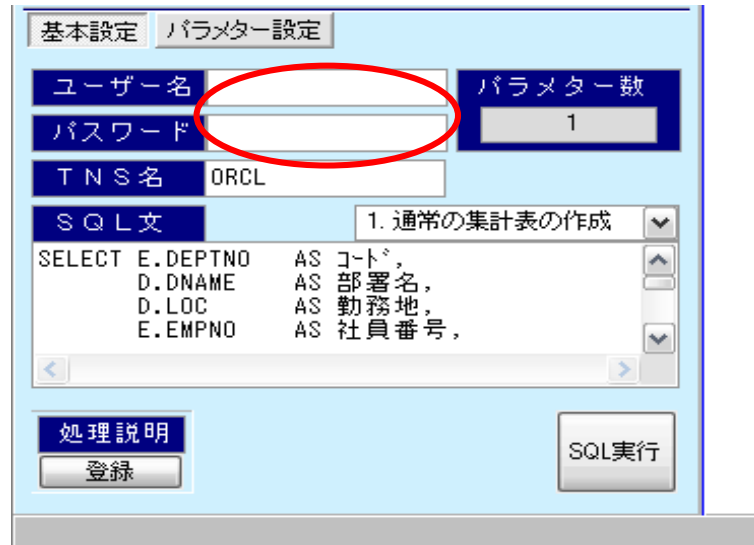


## 第4章 実行時のセキュリティについて

当ユーティリティのセキュリティは、ORACLEの「USER ID.」、「PASSWORD」で行います。

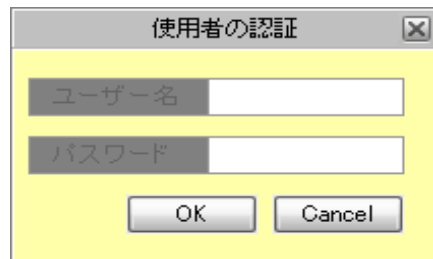
### 1. SQL.WORKERでの設定方法

- 基本設定の項目の「ユーザー名」と「パスワード」を空白にすると、SQL実行時に次項の様に「ユーザー名」と「パスワード」を入力する画面を表示します。



### 2. SQL実行時の入力

- SQL.WORKERでの基本設定の「ユーザー名」と「パスワード」を空白にすると、SQL実行時（SQL.WORKER, INFO.WORKER共）の以下の画面を表示します。
- 尚、INFO.WORKERでは下記の画面で一度入力すると、同一の業務名の処理については、「ユーザー名」と「パスワード」の入力を同じとして省略します。



## [付録] ライセンスの登録について

- ・ライセンス・キーを登録するまでは、プログラムの起動時にスタートアップ画面を約10秒程表示します。
- ・そのまま [試用] ボタン押下で御試用版として動作致します。  
試用期間の30日間は総ての機能を試用できます。31～90日の間は一部の機能が制限され、90日を過ぎるとご利用できなくなります。
- ・ライセンス・キーを入力すると、[登録] ボタンとなりキーの登録がされます。

